

「類義語その7と関係代名詞」

英語の数に関係する数詞で、通常の one, two, three 以外でラテン語や古典ギリシャ語に由来する接頭語を使う言葉を少し整理してみます。各数値とそれを表現する接頭語と例を次の表にまとめます。接頭語も、それぞれ基数詞 (one, two, など)、倍数詞 (once, twice, など)、序数詞 (first, second, など) で別の接頭語がありますが、以下の表では、区別なく記載します。また、例として書いた単語も由来がどちらか確認できず、田辺の判断・想定のものもあります。

数値	ラテン語	例	古典 ギリシャ語	例
1	uni-	uniform 「(一つの形から) 制服」	mono-	monologue 「独白、一人芝居」
2	du-, bi-	duo, duet 「二重奏」 bicycle 「自転車」	di-	dialogue 「対話、対話劇」
3	tri-	triangle 「三角形」 triple 「三重の」	tri-	trilingual 「三言語使用者」
4	quad-	quadrangle 「四角形」	tetra-	tetrapod 「四足獣・消波ブロック」
5	quint-	quintet 「五重奏」 quintic 「五次式」	penta-	pentagon 「五角形」
6	sex-	sextuplet 「六つ子」	hexa-	hexagon 「六角形」
7	sept-	septuple 「七重の」	hepta-	heptagon 「七角形」
8	oct-	octal 「八進数」 octet 「八重奏」	octo-	octopus 「蛸」 octagon 「八角形」
9	non-, novem-	nonuple 「九重の」	ennea-	enneagon 「九角形」
10	dec-, decem-	decimal 「十進数」	deca-	decade 「10年」 decagon 「十角形」
11	undec-	undecennial 「11年ごとの」	hendeca-	hendecagon 「11角形」
12	duodec-	duodecies 「12回の、12番の」	dodeca-	dodecagon 「12角形」
13	tredec-	tredecaphobia 「13の数字恐怖症」	trideca-	tridecane 「炭素数13の炭化水素」
14	quattuordec-		tetradeca-	tetradecagon 「14角形」
15	quindec-	quindecagon 「15角形」	pentadeca-	pentadecagon 「15角形」
16	sedec-	sedecamycin 「セデカマイシン」	hexadeca-	hexadecagon 「16角形」
20	vigint-	vigintioctopunctata 「28星てんとう虫」	icos-	icosagon 「20角形」
60	sexaginti-	sexagesimal 「60進法の」	hexaconta-	
100	cent-	century 「世紀」	hecto-	hectagon 「百角形」

四角形の他の表現として square 「正方形」「広場」や「二乗」もあり、ラテン語の quadrare 「四角にする、適切にする」が由来です。厳密でない場合は、四角形として square も使用できます。また、長方形は rectangle と言いますが、rect-は、ラテン語の「まっすぐ、正しい」が由来で 90 度の正しい angle 「角度」でできた図形の意味となります。

月を表す英語の9月から12月の元の数値の意味では7番目の月から10番目の月となりますが、これは、古代ローマ時代には、名前がつけられた月が10個しかなく、2個の名前の無い月は1年の最初の冬の時期で農作物が収穫できない期間であったとの説があります。1年が名前の無い期間後に March から始まり December で終わっていたのが、紀元前700年に名前の無かった月に名前がつけられ、January と February が追加されたことにより7番目の月を意味する September が日本語の9月になりました。

「宣言する、宣誓する」の意味の DECLARE, PROCLAIM

declare は、「宣言する」という意味の一般的な表現で、特定の集団に対して強い意志を宣言するニュアンスとなります。日本語では他に、「布告する」、「公表する」、「意思表示する」などとも訳されます。

I declared to be innocent. 「無実であることを宣言した。」

名詞形では、declaration となり、「宣言、発表、布告、申請など」の意味となり、例えば有名な(アメリカ)独立宣言は、“(United States) Declaration of Independence” です。次の proclamation ではなく、declaration を使っている理由としては、イギリスによって統治されていた13の植民地が独立を勝ち取り1776年7月4日に宣言をイギリスに対して強い意志を持って発表したことによります。アメリカでの祝祭日は州によって異なる場合がありますが、7月4日は、全米共通で花火を打ち上げてのお祝いとなります。映画「Independence Day」でビル・プルマンが演じたトーマス・ホイットモア合衆国大統領のエイリアン攻撃前に行った演説は感動的でした。

proclaim も、「宣言する」、「公布する」などの意味で、どちらかと言うと大規模で重大な国家的な宣言を行う際に使われる場合が多い様に思います。この単語を分解してみると、pro（前へ）＋claim（叫ぶ）で、人前に叫ぶことで宣言することになります。

The government proclaimed peace. 「政府は休戦を宣言した。」

名詞形では、proclamation となり、「宣言（書）、布告、公式声明、声明書など」の意味となり、declaration に比較して、特に対象を特定せず広く世間への宣言などで使われます。奴隷解放宣言は、“Emancipation Proclamation” でリンカーン合衆国大統領により、1862年9月22日に第1部、1863年1月1日に第2部が發布されています。小規模な場合には、似た様な表現で、pronounce でこれも pro（前へ）＋nounce（報告する）で「宣言する、公言する、など」の意味となります。以前に「話す」の類義語として出てきた動詞で「発音する」の意味で説明しましたが、その意味もあり、小規模な場合に使われそうと理解できるかと思います。

関係代名詞 (relative pronoun) について

関係代名詞の定義をポイントで書いてみると

- ・ 関係代名詞とは、接続詞の役割を兼ねる代名詞で、先行詞に応じて異なる。
- ・ 関係代名詞が導く形容詞節を、それによって修飾される先行詞に結びつける。
- ・ 例外として、関係代名詞 what は、それが修飾する先行詞はなく関係代名詞節は名詞節となる。
- ・ 関係代名詞の人称と数は先行詞と一致。
- ・ 関係代名詞の格（主格・所有格・目的格）は、それが導く形容詞節の中で決定され、先行詞の格とは無関係。

関係代名詞の先行詞と格による種類で変化するのを次の表に纏めます。

先行詞 / 格	主格	所有格	目的格
人	who	whose	whom (who)
動物・事物	which	whose of which	which
人・動物・事物	that	-	that
先行詞なし	what	-	what

- ・ 関係代名詞には、限定（制限）用法と非限定（非制限）用法があり、違いは関係代名詞の前にカンマ “,” の有無。
- ・ 非限定（非制限）用法は、文語で使用されるが、口語（会話）で使われることはない。
- ・ 関係代名詞 that は非限定用法で使用できない。（英語の “th” は、the, this, that など何かを特定する語ゆえ）

関係代名詞や関係副詞などについての使用例や関係する話題については、次回に書くことにして、今回は、上で整理した限定用法と非限定用法について少し情報提供します。限定用法は、関係代名詞が導く節が先行詞を限定する場合で、先行詞の追加的な説明（修飾）をすることになりますので、日本語での表現では、関係代名詞節の意味、先行詞を含む主節の意味の順番で訳すこととなります。対して、非制限用法では、関係代名詞が先行詞を限定せず、二つの等位節（主節と関係代名詞節）を結合するか、先行詞の補足的な説明をするので、日本語の表現では、主節の意味と続けて関係代名詞節の意味の順番で訳すこととなります。実は、この用法の違いは、文章ではカンマ “,” の有無だけですが、意味が全く異なってしまうので、注意が必要となります。以下の例でこの違いが分かりやすいかと思えます。

限定： There were few students who studied hard. 「一所懸命勉強している学生はほとんどいなかった。」

非限定： There were few students, who studied hard. 「学生はほとんどいなかったが、彼ら是一所懸命勉強した。」

限定： I said nothing which made my wife angry. 「妻を怒らせるようなことは何も言わなかった。」

非限定： I said nothing, which made my wife angry. 「何も言わなかった、そしてそのことが妻を怒らせた。」

2番目の例文は、直接的に妻の怒りとなっていますが、最初の文も妻の機嫌が良くない状況が見て取れ、どうも「男はつらいよ」の世界ですね。

今回は、ここまでにします。